

げんき[👑] No.65 カエル

兵庫県立こども病院
ニュースレター



平成 31 年(2019) 4 月 1 日

■ 看護相談外来を紹介します

外来

当院での「看護相談外来」は、お子様の成長発達段階に応じた継続的な医療を安心して受けていただくために専門的な知識や技術を持った看護師が療養支援をおこなっています。

小児期に病気を発症した子ども達も、やがて大人になります。治療を継続しながらの成長発達を見守り、自立した大人として小児医療から成人医療へ移行できる支援も共に考えていきます。受診中のお子様すべての方が対象となります、ご希望の方は外来看護師か主治医にご相談ください。

さらに、ご家庭での自己注射や腹膜透析、気管切開、胃瘻ケアなど医療ケアが必要なお子様には、専門看護師や認定看護師、学会認定看護師が専門分野に特化し

て「看護相談外来」をしています。その際は、在宅療養指導料(170点)を算定させていただきますが、受診日に合わせて個別に対応いたします。ご相談のある方はぜひご利用ください。



お部屋の様子です



お気軽にどうぞ



患者手記(新田歌菜)

新田 歌菜



私は、4月から4年生になります。4ヶ月の時に心臓の手術をして、3歳の時にペースメーカーを入れました。やってはいけないこともあるけど、できることもいっぱいあります。私の得意なことは、絵や文字を書くことと、だれとでも友達になれることです。

幼稚園から毎年、クラスのみんなに知ってもらうために、病気の説明の練習をしています。お母さんが書いた絵に、私が色をぬったりして、そんな時間がとても楽しいです。今では、自分の病気が分かって病名もいえるようになりました。友達に聞かれても自分で説明できるようになったし、自分の気持ちも伝えられるようになりました。体調が悪いときでも、先生にすぐに言えます。

将来の夢は、病気やちりょうの理由、なぜのことがこどもでも簡単にわかる本をつくることです。入院しているときに、いつもお姉ちゃんが、折り紙や手紙、絵をプレゼントしてくれました。それを見たり、絵本を見ると痛いことも忘れることができました。みんなが、病気のことや、痛みを忘れて笑顔で過ごせるように、夢や希望、勇気を与えられるような人間になりたいです。

歯のポスターコンクールで入選しました。



新田 麻理(母)

娘に心臓の疾患があることが分かったのは妊娠8ヶ月の時でした。悲しみにくれる私の側で「ママ、きっと大丈夫だよ」といつも笑顔で励ましてくれた長女の存在。そして産科病棟での出会い…。多くの暖かい言葉に救われ私は元気を取り戻すことができました。娘は予定日より一ヶ月早く産まれましたが、早期に発見していただいたからこそ助かった命だと本当に感謝しています。

長期にわたる手術や入院の間は、娘の生命力を信じ、今日も生きてほしいとただ願いながら、病院を往復する日々でした。こどもも家族も必死に闘い、先生方や看護師さんたちは、いつも自分のことのように心を痛め、寄り添ってくださる…そんな姿を目の当たりにし、病気に向かい合えるようになりました。」また、同じ境遇の友達も多くできました。

退院してからも、度々感染症や外来で病院に行くことが多かったのですが、そんな中多くのことを教えていただきました。どうしても親は、患児中心になりがちですが、寂しい思いをしているきょうだいのサポートもとても大切だという事など、私自身もはっとすることばかりでした。それからは病気や治療についても学び、娘にも周りの人にもわかりやすく説明するように心がけました。薬の名前や効用なども毎回口にするので、親子共々に覚え、飲む習慣も身につきました。毎日の積み重ねや、工夫はとても大切だと感じます。

今は、「心臓病だからできない」のではなく「心臓病でもできる」という自信を持ち、楽しい学校生活を送っています。これからも子供たちが笑顔で過ごせますように。

「しまじろうの病院訪問」“ありがとうございました”

いっしょに笑おう★キャラバン

この取り組みは、ソニー生命とベネッセコーポレーションの共同プロジェクトが、小児病棟を訪問し、病室のお子さんに出会い、キッズスペースで手遊び歌をするなど、「しまじろうと一緒にかけがえのない時間をお届けしたい!」という目的で活動されています。

こども病院には、平成30年10月25日(木)に訪問

して頂きました。「しまじろう」と触れあったことで、子ども達やご家族の方も笑顔が弾け、入院生活や治療の励みとなりました。夢を感じることができ、楽しい時間を過ごさせて頂いたソニー生命とベネッセコーポレーション共同プロジェクトのスタッフの皆様から感謝いたします。



平成30年度を振り返って

総務部次長
西森 玲治

平成30年度は、第63号でもご紹介した皇太子同妃両殿下の当院ご訪問だけでなく、こども病院にとって大きな行事が目白押しの一年となりました。

11月26日(月)にはラグビーのトップリーグに所属する神戸製鋼コベルコスティーラーズ((株)神戸製鋼所ラグビー部)の選手4人が訪問してくれました。ラグビーの紹介や魅力の説明に加え、実際に試合で使われるラグビーボールを使ってこども達とパスをしたり、人を持ち上げてボールを取る「ラインアウト」の実演がありました。また、質問タイムではこども達から「筋肉を見せてください」とお願いされるなど、和やかな雰囲気になっていました。なお、コベルコスティーラーズはその3週間後、トップリーグの決勝トーナメントを勝ち抜き、見事、日本一に輝いています。

その2日後の11月28日(水)にはサッカーJリーグのヴィッセル神戸に所属するアンドレス・イニエスタ選手が当院を訪問してくれました。イニエスタ選手はこども達の前で「会えて良かった。何度も会えるといいですね」とあいさつ。質問コーナーではスペイン語での質問が出たほか、好きな言葉を問われて「努力とリスペクト」と答え、「サッカーがうまくなるためには努力が必要で、チームメイトや監督にリスペクトを持って接することが重要」と語りかけていまし

た。イニエスタ選手からはマフラータオルなどのプレゼントをいただくとともに、記念撮影も行われ、病棟全体が熱気に包まれた一日でした。

また、当院にとって更に大きな出来事として、公益財団法人日本医療機能評価機構が行う「病院機能評価」を受審しました。病院の機能を学術的観点から中立的な立場で評価し、その結果明らかとなった問題点を改善しようというもので、院内では平成29年から受審に向けた準備を重ねてきました。12月12日(水)と13日(木)の2日間に渡り、専門家である調査員(サーベイヤー)から、患者中心の医療が行われているか、良質な医療が提供されているかといった視点から、細部にまで及ぶ審査が行われました。現時点では正式な評価の連絡はありませんが、2日間の審査の締めくくりでは、調査員から「質の高い医療が提供されている」「地域から期待されている病院として、その期待に応えようと取り組まれている」といった発言がありました。

いろいろな形で当院が注目を集めるのは、当院に対し大きな期待が寄せられているからと理解できます。新しい年度になり職員の入替わりもあるかと思いますが、周産期・小児医療の総合施設として高度な医療を提供していくこと、それによりこども達の健やかな成長を目指していくという基本理念のもと、職員一同、たゆまぬ努力を続けたいと思います。





予約センターのご案内

予約センターは、旧病院で予約業務や外来窓口業務を担当していた外来業務に詳しい委託職員を中心に常時4人体制で運営しています。主な業務は、医療機関や患者・ご家族からの外来予約(年間初診約8100件、再診約27000件)、当院から他の医療機関への診療予約、セカンドオピニオンの予約、病院宛てに届く電子メールへの対応(当該部署への転送)などです。取扱時間は、電話での初診予約は9時から17時、再診予約は9時から16時(窓口では17時まで対応)です。予約可能日は表の通りです。

窓口対応をしている場合は電話をお待たせすることもあり、心苦しく思っています。混雑時間帯は9時直後とお昼12時から13時頃です。この時間帯を避け

ていただくと、お待たせすることが少ないと思われます。またお電話の際は、お手元に診察券をご用意いただきID番号をお伝えくださるとスムーズに予約をお取りすることができますのでご協力をお願いします。

17時以降や土曜日は医療機関からの予約はFAX対応となり後日回答しています。患者様に紹介状をお渡しいただき翌日患者様から当センターへ電話していただいて直接予約することも可能です。今後ともスムーズな対応に努めますのでよろしくお願い致します。



予約可能日

	窓 口	電 話
二分脊椎外来、側彎外来	3か月後の末日まで	3か月後の末日まで
整形、泌尿器科、精神科	3か月後の同日まで	3か月後の同日まで
耳鼻咽喉科	6か月後の末日まで	6か月後の末日まで
眼科	1年後の末日まで	6か月後の末日まで
その他の診療科	1年後の同日まで	3か月後の同日まで

直通電話:078-945-7359、FAX:078-945-7330



Concept コンセプト

●**基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

- 基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
 2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
 3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
 4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
 5. 親とこどもが一体となった治療の推進
 6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
 7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
 8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



編集後記

この号が発行される頃には、西隣の南公園では桜の花が満開を迎えていることと思います。ベテランの職員の退職と入れ替わりで、4月には多くの新入職員が勤務を始めます。上司の指導のもと若い視点でのこども病院での活躍を期待します。

委員長：大津雅秀
 委員：濱田啓子 深江登志子
 西森玲治 楠元真由美
 坂田亮介 笠木憲一
 井口秀子 橋本恵美
 廣瀬悦子 三輪祐太郎
 畑友紀子 森泰隆

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院
 HYOGO PREFECTURAL
 KOBE
 CHILDREN'S
 HOSPITAL

〒650-0047
 神戸市中央区港島南町1丁目6-7
 TEL. 078-945-7300
 FAX. 078-302-1023
<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>
[e-mail:info_kch@hp.pref.hyogo.jp](mailto:info_kch@hp.pref.hyogo.jp)